

社会的インパクトと事業性評価

～ Sustainability Design Company ～

2020年9月17日
株式会社滋賀銀行
常務取締役 西藤崇浩

環境経営 ～ 経営に環境を取り込む ～

琵琶湖

生物多様性 / 1450万人の水源

「環境経営」

高い環境意識

琵琶湖「石鹼運動」

「三方よし」

受け継がれる精神

環境経営

滋賀銀行は経営に環境を取り込んだ「**環境経営**」を銀行経営の要諦と位置づけ、省資源・省エネルギー活動に努める「**エコオフィスづくり**」、本業を通じた環境保全への取り組みとして金融に環境を組み込んだ「**環境金融**」ならびに「**環境ボランティア**」活動を展開



環境格付評価融資（PLB資金）

①PLBへの賛同 ⇒ ②PLB格付を取得 ⇒ ③PLB資金借入

《環境格付評価項目:15項目、3段階評価》

ISO14001、エコアクション等認証取得	グリーン調達・グリーン購入の取組
環境会計導入	コンプライアンスの推進部署の設置状況 法令違反の事実・可能性
土壌汚染、騒音、振動等への取組	
環境に配慮した製品・商品の取扱	環境報告書の発行
法令順守方針の策定	投資案件決定時の環境考慮対応
環境方針の策定	温室効果ガス排出量削減への取組
環境保全のボランティア活動	
省エネ・省資源への取組	リサイクルへの取組

＜2020年3月末実績＞

賛同先（事業先比）

11,312先（60.6%）

PLB格付	格付評価	金利引下げ幅
L1	取り組みが先進的	0.5%
L2	取り組みが十分	0.4%
L3	取り組みが普通	0.3%
L4	今後の取り組みに期待	0.2%

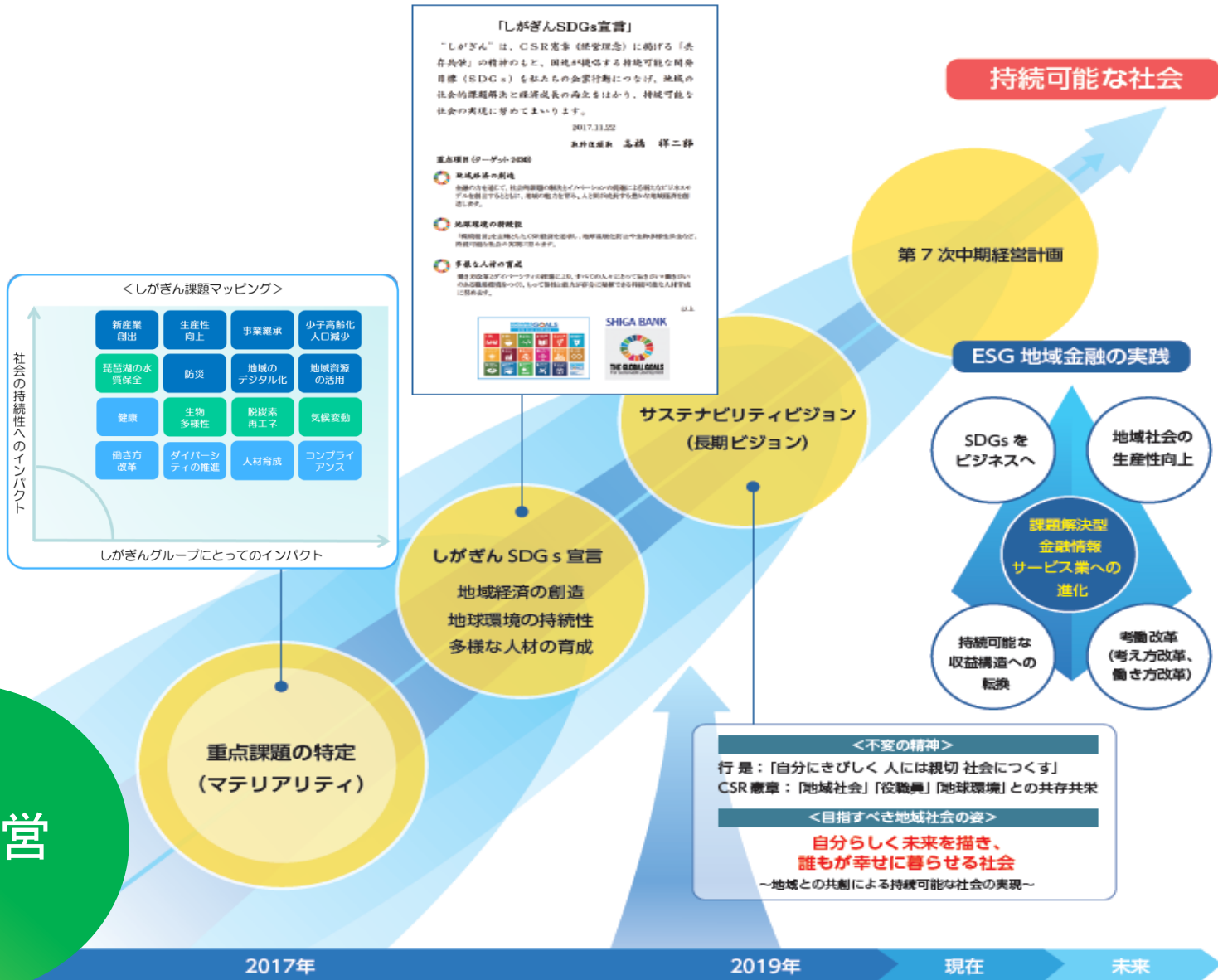
格付内容をオープンにし、
環境保全を促進！！



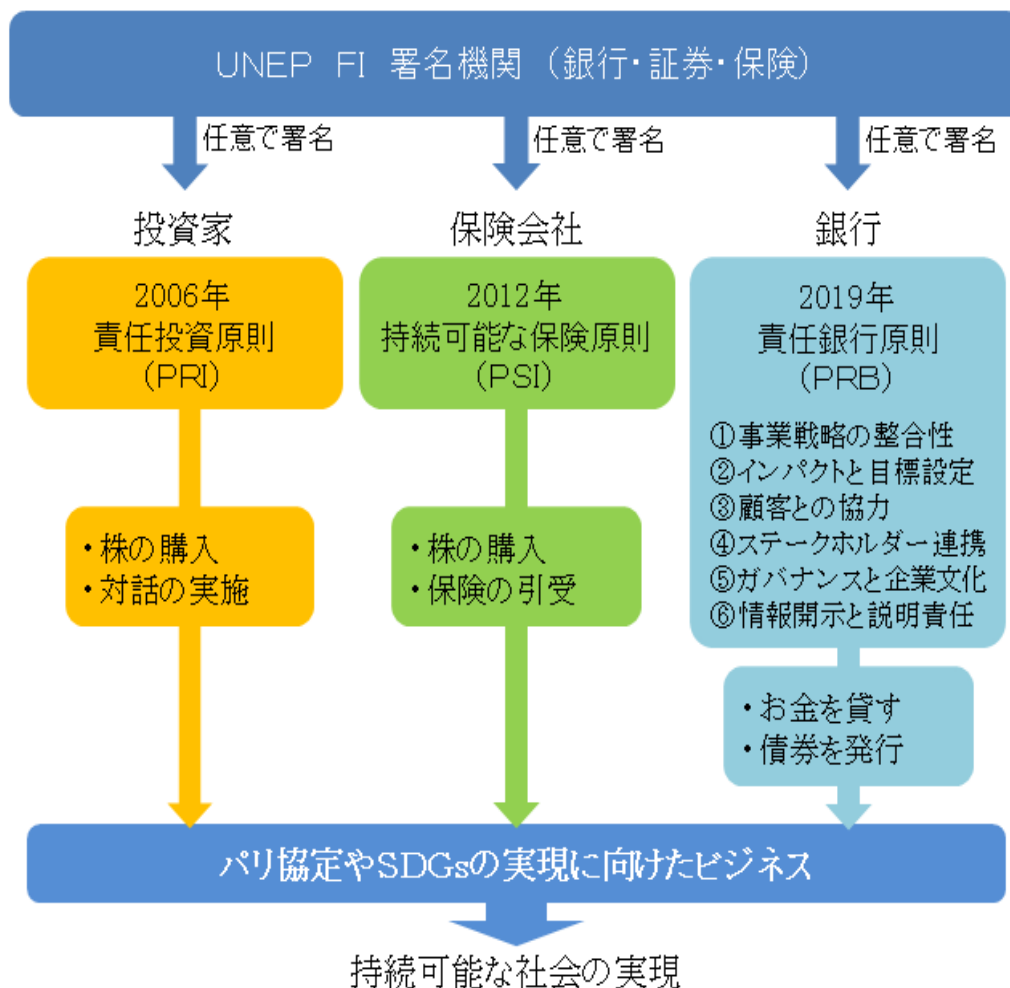
環境保全活動を促すインセンティブ：L5はなし

見えないものを 見える化する！

経営にSDGsを統合する



地方銀行初 責任銀行原則に署名



< 邦銀の署名状況 >

UNEPFI署名
+
責任銀行原則署名

- ・三菱UFJフィナンシャル・グループ
- ・三井住友フィナンシャルグループ
- ・みずほFGフィナンシャルグループ
- ・三井住友トラスト・ホールディングス
- ・滋賀銀行

UNEPFI署名
のみ

- ・日本政策投資銀行

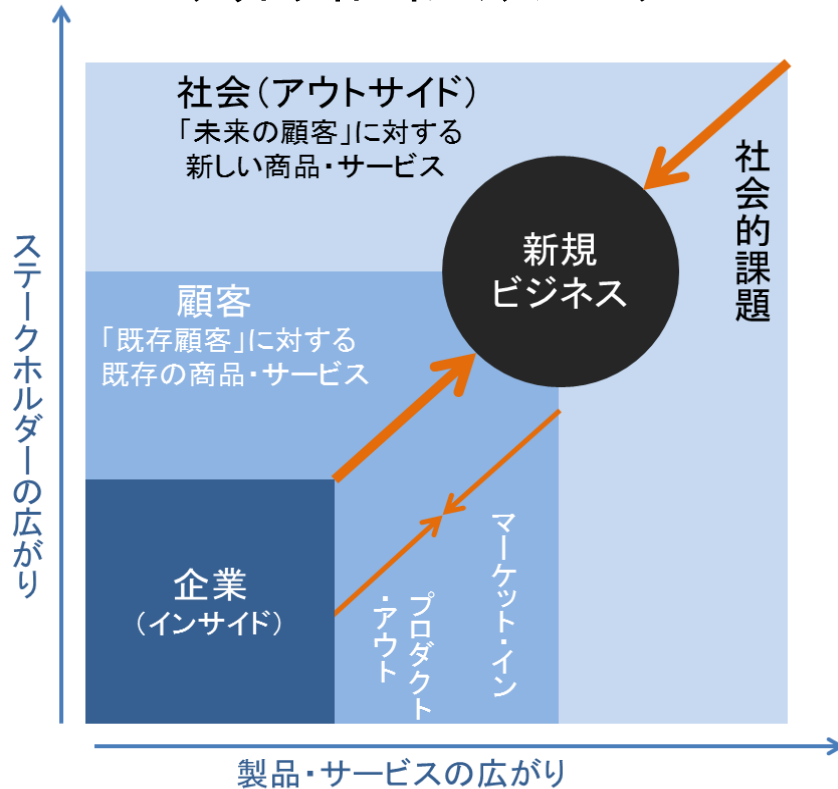
Founding Signatory of:



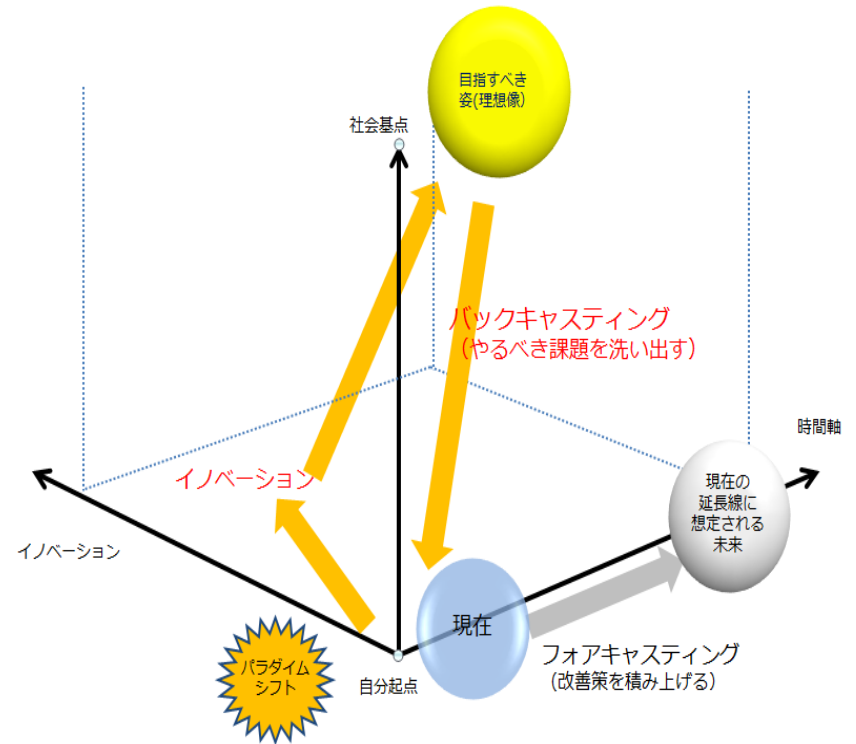
PRINCIPLES FOR
RESPONSIBLE
BANKING

社会的課題解決を起点としたビジネスの展開

アウトサイド・インのアプローチ



バックカスティング



社会的課題解決を起点としたビジネスの創出に向けた取り組みをサポート

サステナビリティ方針の策定

滋賀銀行 サステナビリティ方針

私たちは、行是「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」を原点とするCSR憲章(経営理念)の実践を通じて企業価値の向上を目指すとともに、地域との共創により持続可能な社会の実現に貢献します。

1. マテリアリティ(重要課題)の特定と事業活動を通じた社会的課題解決

滋賀銀行と地域社会の双方にとって持続可能な発展・繁栄につながるマテリアリティを特定し、社会的課題の解決に資する商品・サービスを開発・提供するとともに、地域社会のデジタル化を促進し、課題解決型ビジネスの創出を支援することで持続可能な社会の実現に貢献します。

2. 事業活動による社会的インパクトを重視した経営

事業活動から生じる人や環境へのネガティブ・インパクト(悪影響)を軽減しつつ、継続的にポジティブ・インパクト(好影響)を拡大するよう努めます。金融仲介によって生み出す社会的インパクトを特に重視し、お客さまとの対話を通じて持続可能な社会に向けたお金の好循環を創出します。

3. 地球環境の保全・再生に資するビジネスモデルの確立

当行の存立基盤である地域社会の繁栄は、琵琶湖をはじめとする自然の恩恵を受け、地球環境の持続可能性のもとで成り立っていることを理解し、脱炭素社会の実現、循環経済の構築、生物多様性の保全等に資するビジネスモデルを確立します。

4. 人権の尊重と社会との信頼関係の構築

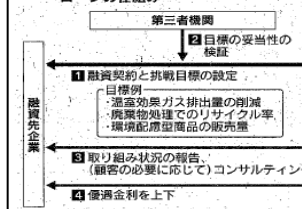
人権を尊重し、高い倫理観に則った誠実かつ公正な企業活動を遂行します。また、法令等を遵守し、ステークホルダーへの公平かつ正確な情報開示と双方向の対話を行い、社会からの期待や要請に真摯に対応することで強固な信頼関係を構築します。

5. 自ら考え行動できる人材の育成と職場環境の整備

SDGsや地域の社会的課題を「自分ごと」として捉え、自ら考え行動できる人材の育成に努めるとともに、多様な個性や働き方が尊重され、ワーク・ライフ・バランスが充実し、一人ひとりが個々の能力を最大限に発揮できる職場環境づくりを目指します。

以上

滋賀銀行のサステナビリティ・リンク・ローンの仕組み



環境負荷低減で金利優遇 中小開拓、目標達成も支援



高橋祥二郎頭取に聞く

滋賀銀行の高橋祥二郎頭取は、本誌「サステナビリティ」に「環境負荷低減で金利優遇」をテーマに、中小企業への開拓、目標達成の支援について語った。高橋頭取は、環境負荷低減で金利優遇を実現し、中小企業への開拓、目標達成の支援について語った。

地域企業の価値高める

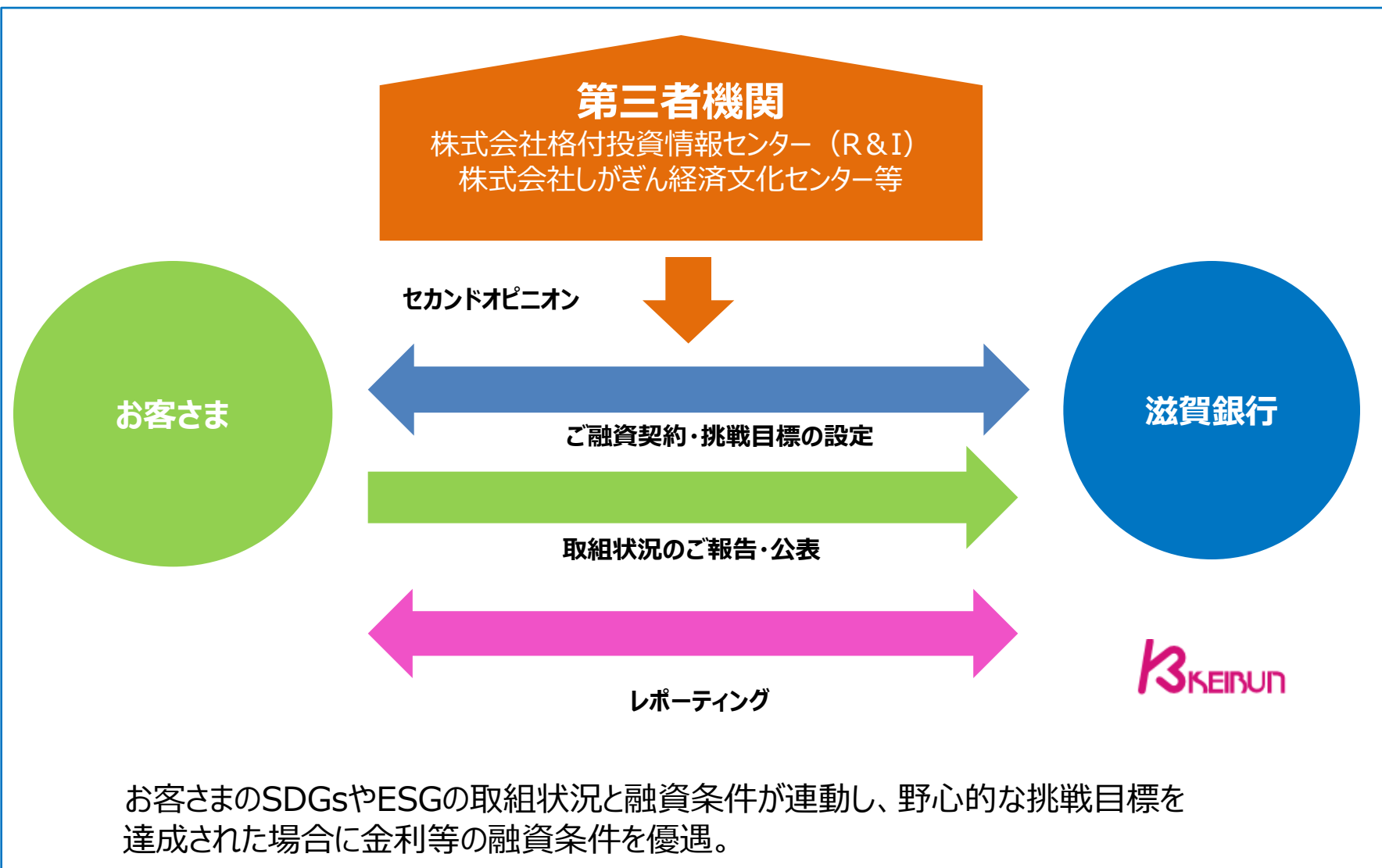
滋賀銀行は、環境負荷低減で金利優遇を実現し、中小企業への開拓、目標達成の支援について語った。高橋頭取は、環境負荷低減で金利優遇を実現し、中小企業への開拓、目標達成の支援について語った。

滋賀銀 ESG対応新融資

滋賀銀行は、環境負荷低減で金利優遇を実現し、中小企業への開拓、目標達成の支援について語った。高橋頭取は、環境負荷低減で金利優遇を実現し、中小企業への開拓、目標達成の支援について語った。

滋賀銀行は、環境負荷低減で金利優遇を実現し、中小企業への開拓、目標達成の支援について語った。高橋頭取は、環境負荷低減で金利優遇を実現し、中小企業への開拓、目標達成の支援について語った。

しがぎんサステナビリティリンクローン（S L L）



SLL 商品概要

	外部レビュー取得型	KEIBUN連携型
基本条件	融資金額：50百万円以上 融資期間：限定しない 適用利率：当行所定ガイドラインによる 資金使途：事業資金（グリーン事業に限定しない）	
対象	客観的に検証されたESGに関する挑戦指標をお持ちのお客さま	ESGに関する指標を自社で計測ができるお客さま または、今後自社で計測する意欲のあるお客さま
挑戦目標の例	お客さまの本業に関連する以下の項目 ・GHG(温室効果ガス) 排出量の削減 ・再生可能エネルギーの生産量又は使用量 ・廃棄物処理におけるリサイクル率（循環経済） ・持続可能な調達（検証済の持続可能な原材料利用の増加） ・環境配慮型商品の販売量 - その他ESGに関する指標 お客さまの本業に関連する指標	
達成時	・達成状況に応じて金利等の融資条件を優遇 ・優遇内容は挑戦目標の難易度等を考慮し個別相談	
目標の設定方法	・お客さまがお持ちのESGに関する挑戦指標 ・自社で計測が可能なもの ・定期的に同じ基準で報告可能な指標 ・新たに目標設定のサポートも可能	
目標の妥当性検証	外部レビュー機関(R&I等)によるセカンドオピニオンの取得が必要	KEIBUNによるセカンドオピニオンの取得が必要
レポート	・毎年1回挑戦目標に関する指標を開示いただきます。 ・KEIBUNがお取引店と連携しレポートを行います。	
手数料	組成難易度等に応じたストラクチャリング手数料が必要 モニタリング手数料：毎年10万円(税別)	組成難易度等に応じたストラクチャリング手数料が必要 モニタリング手数料：毎年10万円(税別)
別途費用	外部レビュー機関によるセカンドオピニオンの取得に実費が必要	別途費用は不要

KPIを設定とモニタリング

具体的行動
(KPI)



本業と関連する
重点取組項目



SDGs宣言にかかげる
崇高な理念の実現

- お客さまの本業と密接に関連するESG項目。
- KPIの達成により、本業の重点課題が解決され、事業の継続性が高まるもの。
- 容易に達成できるものではない野心的(チャレンジング)な目標設定。
 - 外部レビュー型 = 客観的に野心的目標
 - KEIBUN連携型 = 自社にとって野心的目標

自社で計測可能

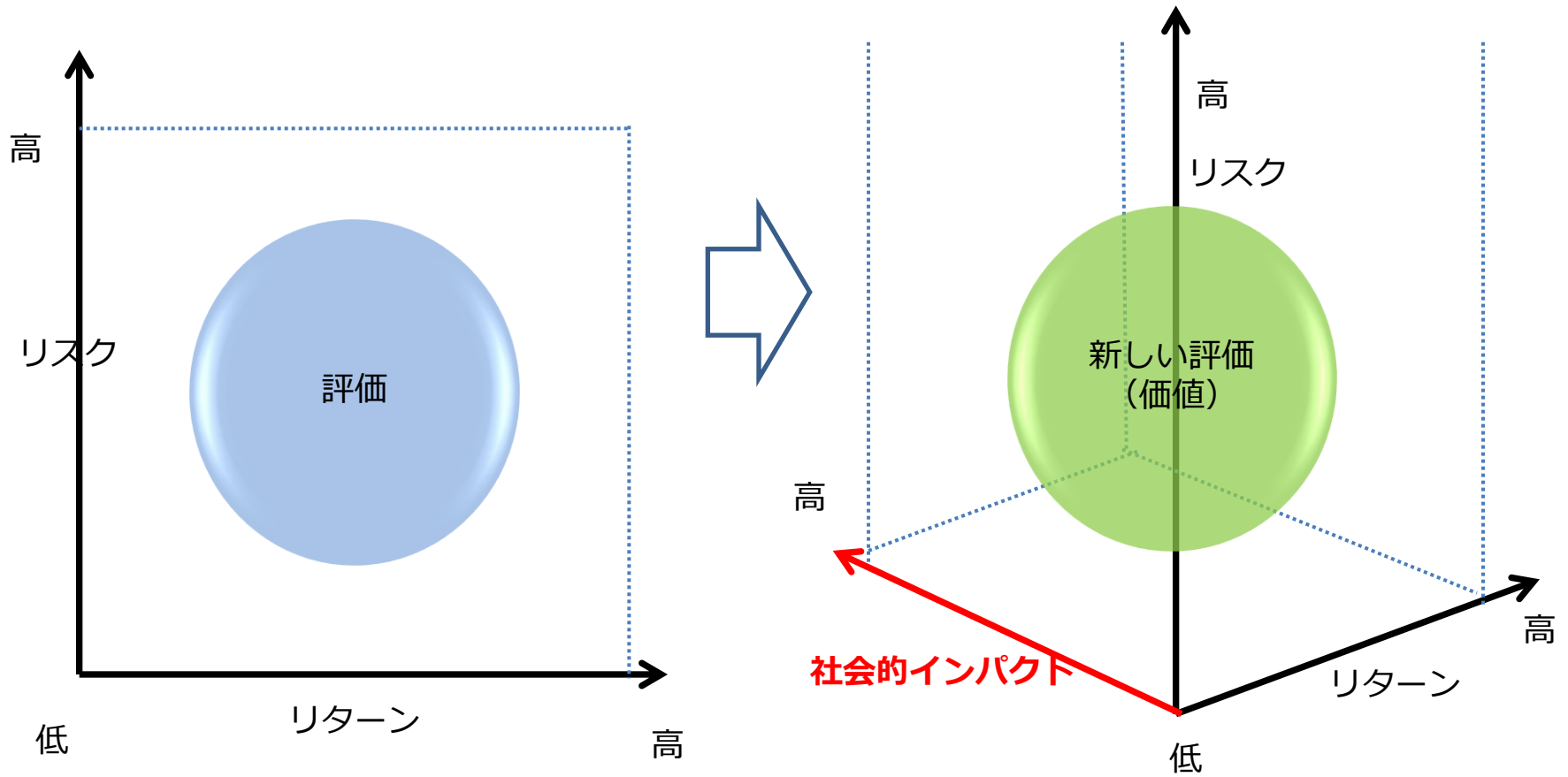
目標を公表

進捗状況を公表

- R&IやKEIBUNで評価
- 目標はお客さまのHPや外部レビュー機関のHPなどで公表
- 自社でKPIを計測し、同じ基準で進捗状況を公表
- モニタリングの実施 → 事業性評価の高度化、目標達成への意欲向上

社会的インパクト評価

リスク・リターンの2次元から、インパクト評価を加えた3次元へ



スターバックスの企業価値変化

2018年 プラスティックストローの廃止による企業価値の向上

真の意味のSDGsの追求により、社会的インパクトがプラスに反映され、企業価値が向上した好事例

	発表前	発表後	
将来CF	プラスチックストロー 1本約0.5円	紙製ストロー 1本約5.0円	コスト高なるが 販売数向上に つながる可能性 →
株主資本コスト	発表前100日間 7.5%	発表後100日間 6.0%	株主が要求する リターンが減少し 企業負担が軽減 ↑
倒産確率	発表前 0.06%程度	発表後 0.05%程度	倒産確率が低下し、 企業の予測存続 年数が増加 ↑

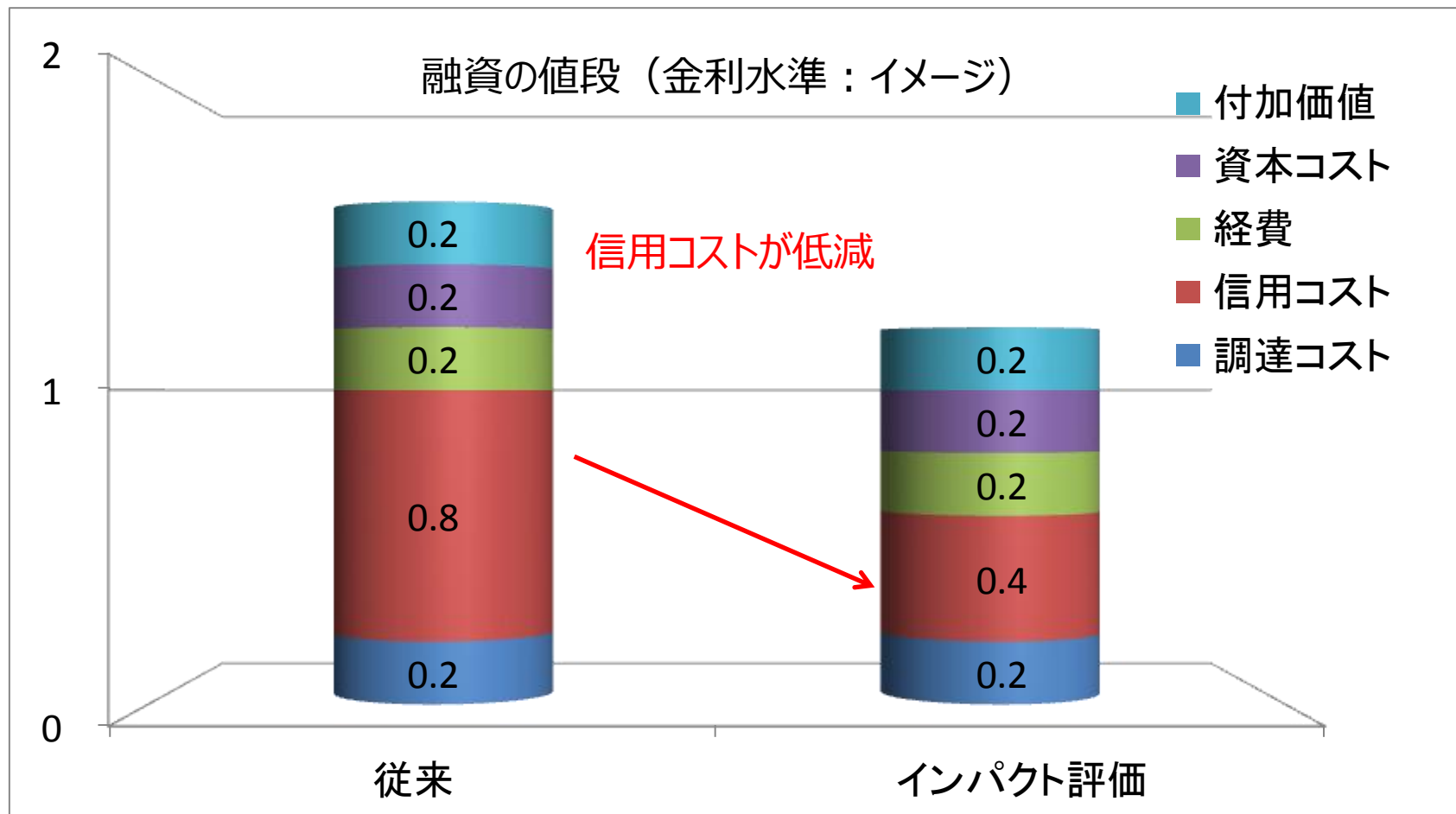
$$\text{企業価値} = \frac{\text{将来CF1}}{1.06} + \frac{\text{将来CF2}}{(1.06)^2} + \frac{\text{将来CF3}}{(1.06)^3} + \dots + \frac{\text{将来CF}_n}{(1.06)^n}$$

企業価値 ↑

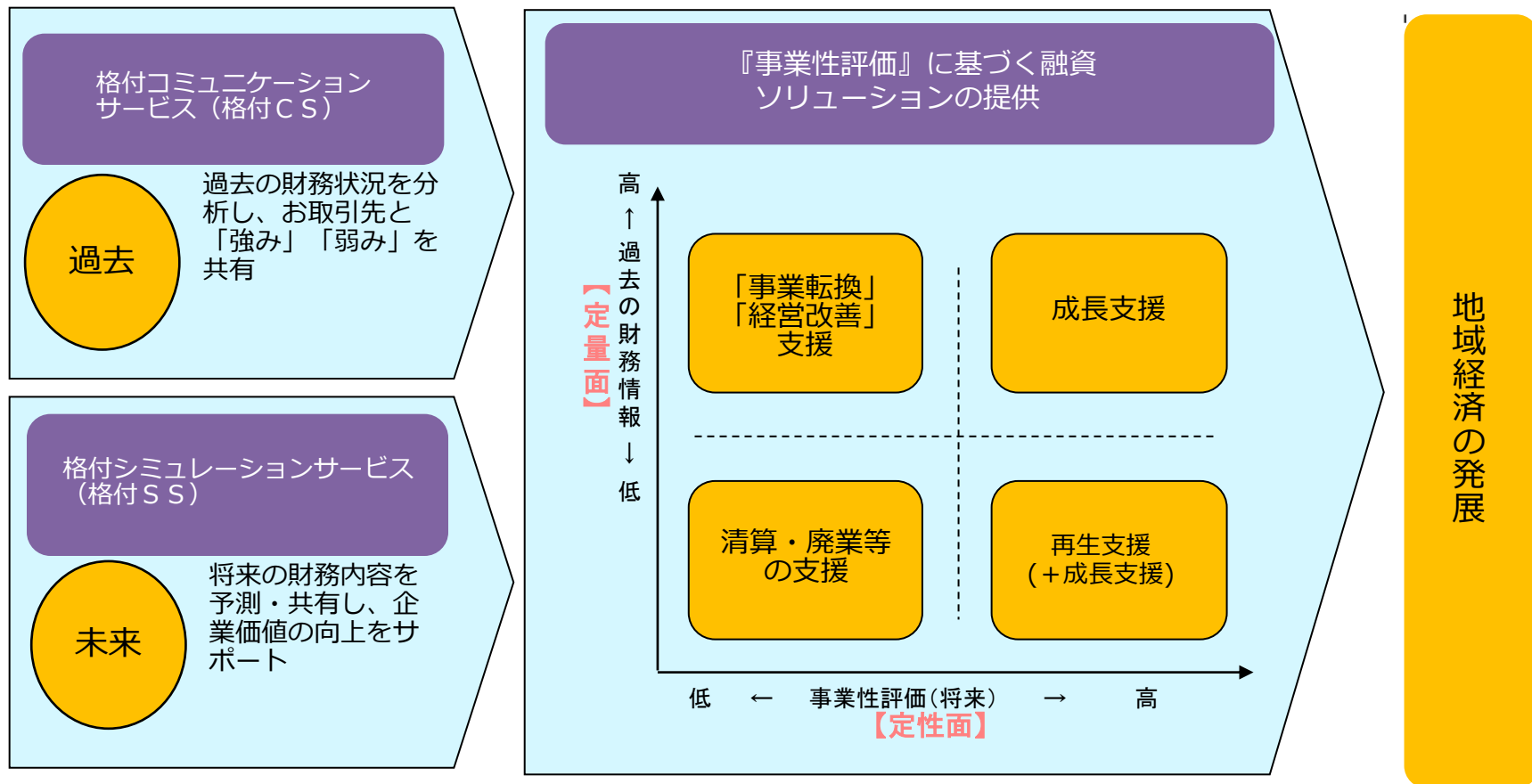
(参考文献) 宝印刷(株)発刊「ディスクロージャー & I R vol.14」

「SDGsの推進は企業価値を高めるか」青山学院大学 伊藤晴祥 准教授 論文記事を加工

社会的インパクト評価で信用コストが低減（仮説）



格付コミュニケーションサービス ～ 事業性評価で新たな価値を創造 ～



社会的インパクト導入に向けた課題

- 社会的インパクトの評価方法の構築
- 仮説を実証するデータの蓄積と検証
- 事業性評価への導入
環境格付 + 格付CS + α

持続可能な開発の3つの側面

- 持続可能な開発は、将来の世代がそのニーズを充足する能力を損なわずに、現世代のニーズを充足する開発と定義
- 持続可能な開発を達成するためには、経済成長、社会的包摂、環境保護という3つの主要素を調和させることが不可欠



日本人の知見：先人からの教え＋未来志向 ～ 短期的視点と中長期的視点のバランス ～

- 三方よし 「売り手よし 買い手よし 世間よし」
(中村治兵衛が書き残した家訓)
- 「道徳なき経済は罪悪であり、経済なき道徳は寝言である」
二宮尊徳(江戸時代の思想家・報徳思想)
- 「実の商人は、先も立ち、我も立つことを思うなり」
「二重の利を取り、甘き毒を喰ひ、
自死するやうなこと多かるべし」
石田梅岩(江戸時代の思想家・心学)

先人の教え＋未来志向で持続可能な社会の実現を！

ご静聴ありがとうございました